授業づくり研修講座　実践レポート

座間市立中原小学校　　氏名　立脇　真弓

単元名　　第　２学年　　「　見て、聞いて、さわって　」

実践のポイント（工夫）

・身近な生き物を観察して気づいたことをメモにまとめ、段落を意識して順序よく書く指導

実践内容

|  |
| --- |
| 「見て、聞いて、さわって」の単元は、身近な生き物を観察して書く作文である。ただ、我が校で飼育している動物は亀だけである。また、クラスで飼育しているのは、金魚である。  そこで、まず、学級の児童が飼っている生き物を調べた。カブトムシの幼虫からウサギ、ハムスター、猫、犬などバラエティーに富んだ生き物を28人中１８人の児童が飼っていた。飼っていない児童には、学校や家の周りで生き物を探し、家で１週間ほど飼って観察することにした。家族のことを書きたいという児童もいたので書く家族を観察できるならいいということでそれぞれ題材をきめた。なかには、友だちの家のペットを観察した子もいて楽しかった。  飼っている生き物や兄弟などの家族をよく観察し、見たこと、聞いたこと、触ったこと、嗅いだこと、思ったことや感じたことの５つの観点があるワークシートにまとめた。５つの観点だけでは、足りないと途中で感じ、初めに、まとめを兼ねて自分の考えを書く２つの観点も付け加えた。日常、観察カードを書くときも五感を使って書こうと声をかけているので、この５つの観点もあまり抵抗なくどの児童も取り組めていた。  ただ、文章を書くのが苦手な児童もいるので教材の先取りをして主語と述語の学習を先にした。そして主語が無いと文の内容がわかりにくいことや読んだ人に様子がわかる文章を書こうと語りかけた。自分たちが書いた作文メモを隣同士で読みあい、話し合いをして自分なりに書いた作文メモの手直しをした。  その後、ワークシートを短冊に切り、自分なりに順番を考え、どうすれば、読む人にわかりやすく伝わるかを考え並び替えた。ほとんどの児童が初めを1番先に並べ、最後に自分の考えや思っていることを並べた。途中の並べ方はあまり工夫できず、多くの児童が書いたままの順で並べていた。効果のある声掛けが出来ず残念であった。  その短冊をもとに段落を意識して詳しく作文を書いていった。段落を意識して作文用紙に清書をしていった。普段、段落を意識していない児童が多いため、短冊１つ分書いたら、行を変えようと指導した。少し、段落を意識できた気がする。  自分で文を読み推敲するのが難しいため、終わった児童同士で読みあい手直しをしていった。手直しの段階で自分の考えや思いが入ると良いねという声掛けをした。  作文を書き終わり、その後、班ごとで互いの作文を読みあい、感想を付箋に書き作品に張っていった。どの児童も班の友だちの作文が読めて楽しそうだった。 |

振り返り（成果や課題）

・書くことは、個人差がとても大きい。書けない児童にどう助言するかが、難しかった。